

ほんごう

札幌市立本郷小学校
学校だより
令和7年7月25日
No. 5

片付けの思いやり

栄養教諭 西崎恵

今年度が始まってから口を酸っぱくして子どもたちに伝えていることがあります。それは食べ終わった後のお皿です。ある日、給食時間が終わり調理員さんが下膳作業をしている時に給食室へ行くと、ふとごはん茶碗が目に入りました。なんとそこには、まだ食べている途中?と思うほどのごはん粒…いや、ごはんの塊が残ったままのお皿がありました。それも一つや二つではありません。他のお皿にも目をやると、小松菜やしいたけ、お肉などがべったりと付いたまま。調理員さんに話を聞くと「この前はもっとすごかったよ。」という一言で、さらにショックを受けました。

この日以降、給食時間では米粒一つ残さず食べている子を見つけたら「すごい!一粒も残ってないね。とっても洗いやすくて助かるよ!」など、みんなのお手本になるように、お皿の上に食べかすが残ったまま片付けをしようとしている子がいたら「このままだと洗うのが大変なんだよね。きれいに取ってくれると助かるな。」など、協力して欲しいなという目線で声掛けをするようにしています。

数か月が経った今、徐々に子どもたちの中でもきれいに食べる・片付ける意識が身に付いてきて、「きれいに食べたよ!」「これでいい?」とお皿を見せてくれる子や、友達が片付けたお皿を見て「まだ残ってるよ。」と子ども同士で教えている場面が増えてきました。完食するにしても、残すにしても食べかすひとつなくきれいに片付けることは、作ってくれた人やお皿を洗ってくれる人への思いやりのひとつです。

給食を通して学ぶことは、栄養や健康な食事についてだけではなく、目の前にある食事に係るたくさんの人の思いや苦勞など、その背景を想像し、思いやりのある行動ができるようになることも大切な学びのひとつです。おうちでも食事の準備や片付けなどの家事のお手伝いをお子さんにお願いするなど、様々な立場になって考えられる経験ができるようご家庭でも、ご支援していただけたらと思います。

